

埋文さいたま

埼玉県の遺跡と出土品の情報誌

No. 58

江戸を守った
旧利根川堤防現る！

特集 地中からよみがえる 木の文化

さいたま発掘情報 (2014年1月～12月)

平成26年度文化財収蔵施設 新収蔵資料

まいぶん探訪 志木市立埋蔵文化財保管センター

監修／発行 埼玉県教育委員会
企画／編集 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

表紙：加須市 旧利根川堤防跡(江戸時代)
旧利根川堤防の断面調査風景

特集 地中からよみがえる木の文化

近年、埼玉県では木製品の出土例が増加しています。木製品は生活の道具として、生活の様々なシーンで使用されていました。今回の特集では住まいや生産にかかわる古代の木製品を紹介していきます。



溝跡から出土した多量の木製品 (東松山市城敷遺跡)

1 農耕の道具

古代の人々は、土地を耕す**鍬・鋤**、脱穀や**籾摺り**をする**臼・杵**など多様な木の道具を使い分けていました。弥生時代には、既に現代にも通じる農耕具が出揃っていました。

鋤 すき

スコップのように土を掘り起こす道具です。古墳時代中期以降には鍬・鋤の先端に鉄刃を装着する例が多くなります。右下の鋤は鉄刃を装着するために周辺がU字形に削られています。



平鋤 (坂戸市中耕遺跡) 古墳時代
平鋤 (東松山市反町遺跡) 古墳時代

鍬 くわ



鍬の身・柄 (熊谷市北島遺跡) 古墳時代



膝柄 (鍬の柄) (東松山市反町遺跡) 古墳時代

三又鍬 (行田市小敷田遺跡) 古墳時代

ナスビ形鍬 (東松山市反町遺跡) 古墳時代



広鍬 (東松山市反町遺跡) 古墳時代



横鍬 (東松山市反町遺跡) 古墳時代



えぶり (田をならす道具) (行田市小敷田遺跡) 古墳時代

馬鍬 まぐわ

馬が引く代掻き用の農具で、古墳時代後期頃から使われるようになりました。この製品は刃と台木が残っていますが、本来は馬とつなぐ紐をかける引棒と、人が握る把手部が付いています。



馬鍬 (東松山市反町遺跡) 古墳時代

おおし大足 田下駄 たげた

大足は水田の土をならすほか、肥料となる草を泥中に踏み込む代踏みに使われました。下の大足は二点揃って出土しましたが、足を乗せる足板は残っていませんでした。長さ80cm、幅50cmと大形の製品です。

田下駄は水田で作業する時に足に装着するもので円形の杵が付きます。



大足 (行田市小敷田遺跡) 古墳時代
田下駄 (東松山市城敷遺跡) 古墳時代

横槌 よこつち

民具の研究から藁を打って柔らかくする「藁打ち」や「豆打ち」など、叩く機能を持つと考えられる農具です。



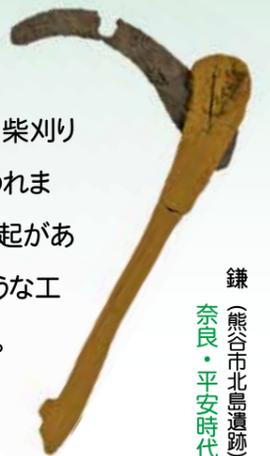
横槌 (熊谷市諏訪木遺跡) 古墳時代



横槌 (行田市小敷田遺跡) 奈良時代

鎌 かま

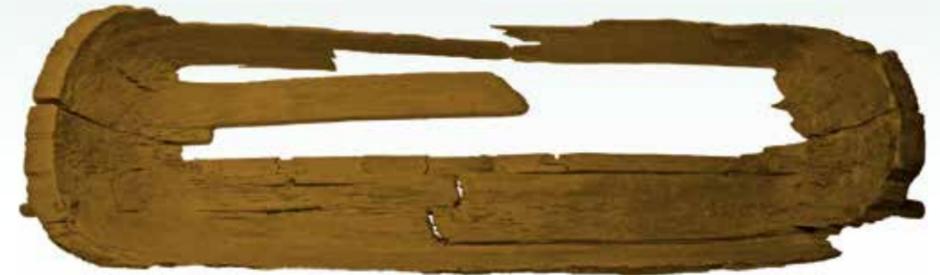
稲の収穫・草刈・柴刈りなどの作業に使われます。柄の端部に突起があり手が滑らないような工夫がされています。



鎌 (熊谷市北島遺跡) 奈良・平安時代

水田での運搬に使われたと考えられる小舟です。長さ171cmで、外側に棒状の突起が4カ所ついています。

たぶね田舟



田舟 (熊谷市北島遺跡) 古墳時代

たてぎね 竪杵 臼 うす

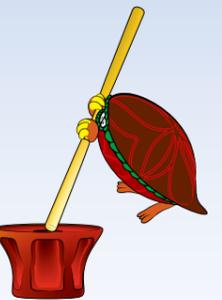
収穫した稲や穀物を脱穀・籾摺りする道具です。左下の臼は高さ40cmで臼としては大きなものです。



臼 (東松山市反町遺跡) 古墳時代



竪杵 (熊谷市北島遺跡) 古墳時代



竪杵 (行田市小敷田遺跡) 奈良時代

2 木のうつわ

木製容器は縄文時代早期には作られるようになり、土器とともに日常の容器として利用されてきました。木を削り抜く「**くりもの**」、ロクロで成形する「**ひきもの**」、薄板を筒状にする「**まげもの**」、細い木を編む「**あみもの**」などの種類があります。

くりもの 削物

1は丸木を削り抜いて作った縄文時代後期の容器です。底部に2か所の脚が付いています。3～6は古墳時代の製品ですが、同じ時代でも方形・楕円形、脚が付く製品・付かない製品などがあります。6は楕円形をした曲物の蓋であると考えられます。



曲物 まげもの

曲物は奈良時代以降に一般的に使われるようになります。下の曲物は井戸の底で水をためる部材へ転用されていました。底板が外されています。



下の椀は挽物の容器で、内外面に赤漆が施された漆椀です。



あみもの 編物

直径159cmの大形の六目籠で、マダケを編んでいます。底部には放射状に植物を敷き、網代編みの敷物を重ねています。



ひきもの 挽物



3 住まいの部材

住居に使われた柱・壁板・床板・扉・垂木・梯子など、遺跡からは様々な建築材が出土します。これらはバラバラの状態出土することが多いため、元の建物の姿を復元することは困難ですが、各時代の建築の様式や技術を私たちに教えてくれます。

建築材 けんちくざい

1は柱に刻んだ溝に落とし込む壁板です。2は扉を固定する出入口の部材です。扉の軸穴が2つあることから再利用されたと考えられます。3は住居の柱材で上部は腐食しています。4は長さ146cmの大形の扉です。5は長大な梯子で長さが297cmもあります。



4 木製品の製作

製品とするには木を切り倒し、楔で分割して板を作り、工具で加工して仕上げます。遺跡からは製作途中の未成品が見つかることがあります。集落内で生活に必要な道具を製作していたのでしょう。

表面に手斧という工具で削った加工痕が残っています。加工痕からは斧・鑿・槍鉋など使用した工具を知ることができます。



樹皮紐には曲物の側板を綴じあわせる、編んで容器にするなどの機能があり、ものづくりには欠かせませんでした。



傷を付けて漆液を採取した跡が11カ所残っています。漆液を採取し、何に塗っていたのでしょうか。



この未成品は完成すると2頁の鍬6の形になります。身にはまだ厚みがあり柄の穴もあけていません。集落内で鍬を作っていたことを物語っています。



ここまで様々な木の道具を紹介してきました。縄文時代以降、木の道具は人々の生活には欠かせないものであったことが分かったのではないのでしょうか。

木の道具作りには、木に関する豊富な知識と高い加工技術が必要です。遺跡から出土する木製品は、木を知り利用してきた古代の「木の文化」を現代によみがえらせてくれます。

縄文時代早期の貝塚を持つ住居跡

いなりだい
① 稲荷台遺跡 (上尾市)

遺跡は上尾市西貝塚地区にあり、荒川を臨む大宮台地の西端に立地しています。これまでの調査で縄文時代・古墳時代・平安時代の集落跡が発見されました。

今回の調査では、旧石器時代のブロック3箇所、縄文時代の住居跡4軒、炉穴19基、古墳時代の住居跡3軒、土壌墓、近世の掘立柱建物跡6棟などが確認されました。

縄文時代早期の1軒の住居跡には、人が住まなくなった後に貝殻が捨てられ、小規模な貝塚がつくられていました。

調査機関：(公財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



空から見た稲荷台遺跡



縄文時代早期の貝塚



縄文時代前期の住居跡

山と川に育まれた縄文時代中期の集落

べっしょだいら
② 別所平遺跡 (飯能市)

遺跡は、市内を東西に流れる入間川沿いの大河原地区に所在します。入間川が山あいから市街地へと流れ出る地区の右岸にあたり、標高約120mの北に開けた風光明媚な段丘上に立地しています。調査は工業団地へのアクセス道路の建設に先立って行われており、来年度も継続される予定です。

遺跡は縄文時代中期中葉の集落跡で、勝坂式から加曾利EⅡ式頃にかけての住居跡が、狭い範囲に20軒程密集して発見されました。底部に穴を開けた土器とともに耳飾りが出土するなど、お墓の可能性が考えられる遺構もありました。

調査機関：飯能市教育委員会



調査区全景



縄文時代中期の住居跡



調査風景

さいたま発掘情報
2014年1月~12月



縄文時代後・晩期の盛土遺構の追加例

こふかさく
③ 小深作遺跡第4・5次 (さいたま市)

遺跡は七里駅から北西約300m地点の、さいたま市見沼区小深作地区に所在します。25年度と26年度に調査が行われ、後・晩期のいわゆる盛土遺構、竪穴状遺構、土壌、溝状遺構などが発見されました。遺跡は古い文献に「武蔵国北足立郡春岡村小深作遺跡」として、「土手状を成した部分」から出土した遺物が紹介されています。この「土手状を成した部分」は今日の盛土遺構と考えられ、今回の調査でも南側の調査区で確認されました。注口土器・土製円盤・土偶・土版などが出土しており、後・晩期盛土遺構の貴重な追加例となりました。

調査機関：さいたま市遺跡調査会



第5次溝跡



第5次竪穴状遺構



第4次調査風景



第4次出土土偶

弥生時代の土偶形容器が出土

すわのき
④ 諏訪木遺跡 (熊谷市)

遺跡は熊谷市上之地区にあります。今回の調査では弥生時代の住居跡などが発見されました。

弥生時代中期後半の住居跡からは、県内初となるほぼ完全な形の土偶形容器が出土しました。頭頂部が開口中は空洞になっています。耳の穴はピアス穴、首の文様はネックレス、顔の縄文は刺青を表現しているのかもしれませんが。熊谷に居住した弥生人の具体的な様子がうかがえ、弥生時代を研究するうえで重要な資料になるといえます。

調査機関：熊谷市教育委員会



調査区全景



土偶形容器・弥生土器



土偶形容器出土弥生時代竪穴住居跡



調査風景

市内初の人物埴輪が出土!

⑤ ハケ遺跡 (ふじみ野市)

遺跡は、上福岡駅の北東約1.5km地点の福岡地区で、南北に流下する新河岸川の右岸に位置します。遺跡の試掘調査で、市内で初めてとなる人物埴輪が、古墳の周溝から出土しました。人物埴輪は女子の上半身の埴輪で、高さが45cm程です。眉毛・鼻・耳を粘土で立体的に形作り、目と口は切れ込みを入れた細長い穴で表現しています。耳飾りをつけ、頭は髻を結っています。近くからは手の部分も出土しています。埴輪は6世紀の中頃に位置付けられるものと思われます。

調査機関：ふじみ野市教育委員会



調査区全景



埴輪出土土状況



7

下総台地でも埼玉県、各県との流通拠点？

まきのじきた
⑥ 榎野地北遺跡 (幸手市)

遺跡は幸手市大字榎野地地区にあり、下総台地の西端に位置しています。今回の調査では、住居跡28軒、炉穴21基、掘立柱建物跡、土壌などが発見されました。

炉穴は縄文時代早期のもので、掘込みの内部には焼土が残存し、条痕文系土器が出土しました。

住居跡は古墳時代後期から奈良時代のものが多く、土師器や須恵器、玉類、土製品などが出土しました。須恵器には茨城県(新治窯跡)や静岡県(湖西窯跡)で生産された蓋や坏があり、古代の社会における流通の様子がうかがえます。

調査機関：(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団



調査風景



勾玉



竪穴住居跡群



須恵器出土状況

土器をかけたままのカマド発見！

しろやま
⑦ 城山遺跡第80地点 (志木市)

遺跡は志木市柏町地区の埋蔵文化財保管センター南西約200mに位置し、「柏の城」で知られている遺跡です。これまでに何回もの調査が行われ、今回の第80地点の調査では、古墳時代後期、およそ7世紀中頃の住居跡が発見されました。

住居跡のカマドは残りが良く、カマド左右の袖の芯材に長甕を利用し、天井部には2個体の長甕を橋渡ししていました。さらに、支脚の上には掛けてあった状態の甕が発見されました。カマドの作りと、使用状況がよく分かる事例です。

調査機関：志木市教育委員会



遺物出土状況

調査風景



長甕を芯材にしたカマド



カマドの推定復元図



奈良時代の住居跡



緑泥片岩を芯材にしたカマド

調査風景



調査区 全景



住居建築資材の地産地消？

みやまえ
⑧ 宮前遺跡 (小川町)

遺跡は小川町青山地区にあり、槻川右岸の河岸段丘上に位置しています。

今回の調査では、奈良時代の住居跡2軒と、縄文時代・奈良時代・中世の土壌などが見つかりました。

第1号住居跡からはカマドや貯蔵穴が見つかり、土師器の坏や甕、須恵器の坏などが出土しました。カマドには袖の補強材としてこの地域で採れる緑泥片岩が使われています。周辺の遺跡でも緑泥片岩を使用したカマドが見つかることから、この地域のカマド構築の特徴と考えられます。

調査機関：(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団



古代の大型掘立柱建物跡を発見

やまだ
⑨ 山田遺跡 (坂戸市)

遺跡は、坂戸市八幡地区の台地上に位置します。過去の調査では、奈良・平安時代の集落から奈良三彩や墨書土器が出土しています。

今回の調査でも、奈良・平安時代の竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡9棟、井戸2基などが発見されました。なかでも、長大な掘立柱建物跡や大型の井戸など一般的な集落では見られない特殊な遺構が確認されました。また、住居跡からは数多くの土器や墨書土器、石製紡錘車、鉄製品なども出土しました。

調査機関：坂戸市教育委員会



奈良時代の住居跡

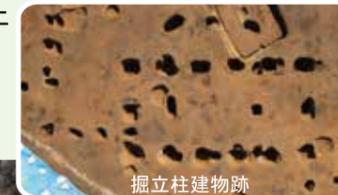


調査風景

カマド遺物出土状況



調査区全景



掘立柱建物跡

江戸を守った旧利根川堤防

きゅうとねがわていぼうあと
⑩ 旧利根川堤防跡 (加須市)

旧堤防跡は加須市大越地区にあり、利根川の右岸に形成された自然堤防上に立地しています。調査は首都圏氾濫区域堤防強化対策工事に伴って行われました。

今回の調査で、旧堤防跡は中世の墓域の上に築かれていたことが判明しました。旧堤防跡は近世から近現代にかけて使われていたもので、大きく分けて三回の改修が行われています。

この場所の旧堤防跡は北側(現在の堤防に向かって)に曲り、昭和の前半頃まで機能していたことがわかりました。

調査機関：(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団



中世の土壌墓



旧利根川堤防跡の断面



調査区全景



平成26年度

文化財収蔵施設 新収蔵資料

埼玉県文化財収蔵施設には、県内各地の発掘調査で出土した資料が約40万点収蔵されています。発掘調査で発見された資料は、報告書刊行が終了すると文化財収蔵施設に収蔵され、学校教育、生涯学習、博物館等、様々な場での活用が図られています。

今回は、最新の収蔵資料のほか、すでに収蔵されている資料の中からも御紹介します。

おおきど 大木戸遺跡 (さいたま市)

注ぎ口の付く注口土器(右)は、胴部が丸く、櫛歯状工具で曲線の文様が描かれています。注口は垂直方向に近い角度で取り付けられており、液体を注ぐのには不便な状態です。口縁部の把手に蔓などの持ち手を付ければ、現代の土瓶に瓜二つです。この頃になって初めて、胴部の丸い土瓶と同じ形の注口土器が出来上がりました。ミニチュアの深鉢形土器(左)は高さが約13cmで、注口土器と同様に、お祭りなどに使われたものと考えられます。両者とも同じ住居跡から出土しており、約3500年前の加曾利B1式土器と呼ばれる土器です。

事業団報告書第405集『大木戸遺跡Ⅱ』



ミニチュアの深鉢形土器



注口土器

すわの 諏訪野遺跡 (桶川市)

諏訪野遺跡は縄文時代中期後半の大環状集落で、調査区内に78軒の住居跡が発見されました。今回は全体の半分が報告され、約4500年前の加曾利EⅠ式土器(中)を中心として、勝坂式~加曾利EⅡ式までの大量の土器群が収蔵されました。装飾に富んだ勝坂式土器(左)や、東関東地方の特徴を兼ね備えた加曾利EⅠ式土器(右)など見応え盛りだくさんの土器群です。

事業団報告書第410集『諏訪野遺跡Ⅰ』



勝坂式土器



加曾利EⅠ式土器



加曾利EⅠ式土器

たかぎみちした 高木道下北遺跡 (さいたま市)

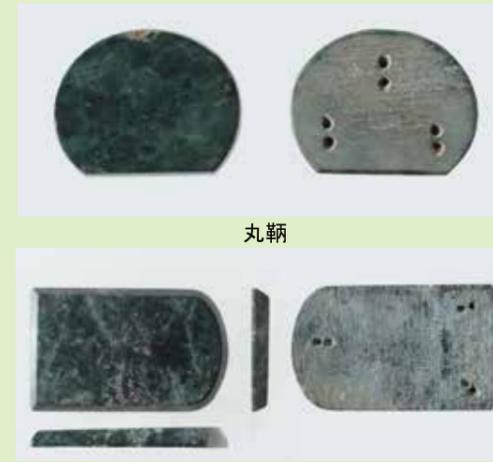


小型有孔広口壺

縄文時代の墓には、小型の鉢や浅鉢を供える例が多く見られます。高木道下遺跡では、土壌から写真の壺形土器が出土しました。土器は大きさが19cmの小型有孔広口壺と呼ばれるもので、口の周りに橋状の穴が巡ります。約4300年前の加曾利EⅢ式土器と呼ばれる土器です。この土器が出土した土壌も、墓の可能性が高いと思われます。

事業団報告書第406集『高木道下(C-99) / 高木道下北』

はちじょう 八條遺跡 (八潮市)



丸靱

蛇尾

写真の半円形と長方形の石製品は、前者が丸靱、後者が蛇尾と呼ばれる蛇紋岩製の良く磨かれた石製品です。丸靱、蛇尾とも古代の役人のベルトに付けられた装飾品です。官位によって色や材質が定められており、勝手に使用することはできませんでした。裏側にそれぞれ3つの潜り穴があり、縫い目が表に出ないように取り付けられていたようです。

事業団報告書第407集『八條遺跡』

収蔵資料の紹介

「卅六次四百八束并千三百七十小稲二千五十五束」



「九月七日五百廿六〇四百」



左の写真は飛鳥時代の木簡と呼ばれる資料で、昭和58年に調査された小敷田遺跡の土壌から出土したものです。他にも木簡が出土していますが、特にこの木簡は、当時の稲束の利息付貸借制度である「出挙」に関わるものであることが明らかになりました。木簡には「526(束)」「436(束)」「408束」という数字が書かれており、合計で貸付けが「1370(束)」であることが記されています。そして収穫期には、「小稲(称稲…出挙稲のこと)2055束」で、出挙稲が貸付1370束の1.5倍に当たる、2055束が返済されたことを示しています。

この木簡は、ともに出土した土器により7世紀末~8世紀初頭の年代が明らかであり、大宝令(701年施行)前後の公出挙の割合が5割増しであったことと符合する大変貴重な資料です。出挙稲と利子稲を徴収した際の覚書として使用され、後に廃棄されたものと考えられています。

まいぶん探訪

志木市立埋蔵文化財保管センター



展示室(左)と収蔵庫(右)

志木市立埋蔵文化財保管センターは、市内で発掘調査された出土遺物(埋蔵文化財)の収蔵を目的として、また発掘調査の拠点施設として平成22年にオープンしました。収蔵庫には、約3500箱の遺物が収納されています。

センター内に併設されている収蔵展示室では、旧石器時代から中・近世にわたる代表的な遺物が約1000点展示されており、平成24年度に市の文化財に指定された土器などの遺物も展示されています。

特に、にしはらおおづか西原大塚遺跡出土の装飾性豊かな縄文時代中期の土器、愛らしい弥生時代の動物形や鳥形の土製品、端麗な壺形土器などが目を引きまします。遺物は棚やガラスケースに整然と並べられ、見学しやすいように展示されています。

展示品



縄文時代中期の顔面装飾把手付土器



縄文時代後期の土偶の顔



弥生時代の犬形土製品



奈良時代皇朝十二銭の「富寿神宝」ふじゆしんぼう



ガラスケースの展示風景



収蔵展示の見学風景



志木市立埋蔵文化財保管センターのご案内

- 住所 〒353-0007 志木市柏町1-20-19
- 開館時間 午前9時から午後5時まで(入館は午後4時まで)
- 休館日 毎週土・日曜日・年末年始・祝日
- 入館料 無料
- 交通案内 東武東上線「柳瀬川駅」西口より下車徒歩16分
- 問い合わせ 志木市立埋蔵文化財保管センター
- 電話 048-473-8157

